

出題の意図

大学院等：熊本大学大学院人文社会科学教育部 課程等：博士前期課程

専攻：法政・紛争解決学専攻 コース：法・公共政策実践コース

試験の種別：外国人留学生入試

科目等：環境経済論

問 1.

宇沢弘文の『自動車の社会的費用』とは、自動車利用者が負担する費用（ガソリン代、車両代など）だけでなく、社会全体が負担する「負の外部性」すなわち外部不経済を社会的費用（公害、交通事故、渋滞、環境破壊、都市の非人間化など）として算出し、その費用を「内部化（自動車利用者が負担するようにする）」すべきだと主張した 1970 年代の交通戦争が激しく、道路整備が追い付かなかった当時の日本の状態を改革しようと提案した著作である。宇沢は、既存の交通事故に遭った被害者に対する損害賠償を算定するのではなく、交通被害を起こさないように道路を整備するためにかかるコストを、自動車 1 台あたり年間約 200 万円とし、これを自動車の社会的費用としている。

本論文執筆時にはスタンダードな経済学では例外的概念であった外部不経済の概念を、反主流派経済学（制度学派）の K. W. Kapp の社会的費用という概念に置き換え、資本主義経済においてこのような外部不経済が必然的に起こるという概念を用いた点では、主流派の経済学批判の書である、あるべき都市交通の姿を提言した考え方である。

このほか、宇沢の提唱している社会的共通資本の概念を用いて向達している答案や、本論文で取り上げられている具体的な事例の正確な記載があれば加点する。